

復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県加美町（チリ）

- 1960年のチリ沖地震以来、チリと交流のあった南三陸町に設置されていた同国寄贈のモアイ像が東日本大震災によって流されてしまったことを受け、イースター島よりモアイ像が寄贈された。一方、被災時に、避難民の受け入れや職員の派遣などで、同町を支援した加美町は、かねてより力を入れていたパラカヌー等について、チリ選手の受け入れを決定。両町が協力して、チリ国民に対し、復興を成し遂げつつある姿を発信するとともに、支援に対する感謝の念を示すため、加美町は「復興ありがとうホストタウン」に登録。
- 加美町は、早速2019年からチリのパラリンピック選手団の受け入れを実施。選手は南三陸町にも訪問し、南三陸町民の方々とも交流を実施する予定（大会時にも交流予定）。



パラカヌー選手と子どもの交流



ゆるきゃら「かみ〜ご」(ホストタウンマーク入り)



締結式レセプションでのチリ料理



右)加美町でのパラリンピック選手団事前合宿に係る覚書締結式。南三陸町長も出席 (2019年2月)

左)ホストタウンサミットに出席するチリNPC事務局長とパラカヌー選手団(2019年2月)